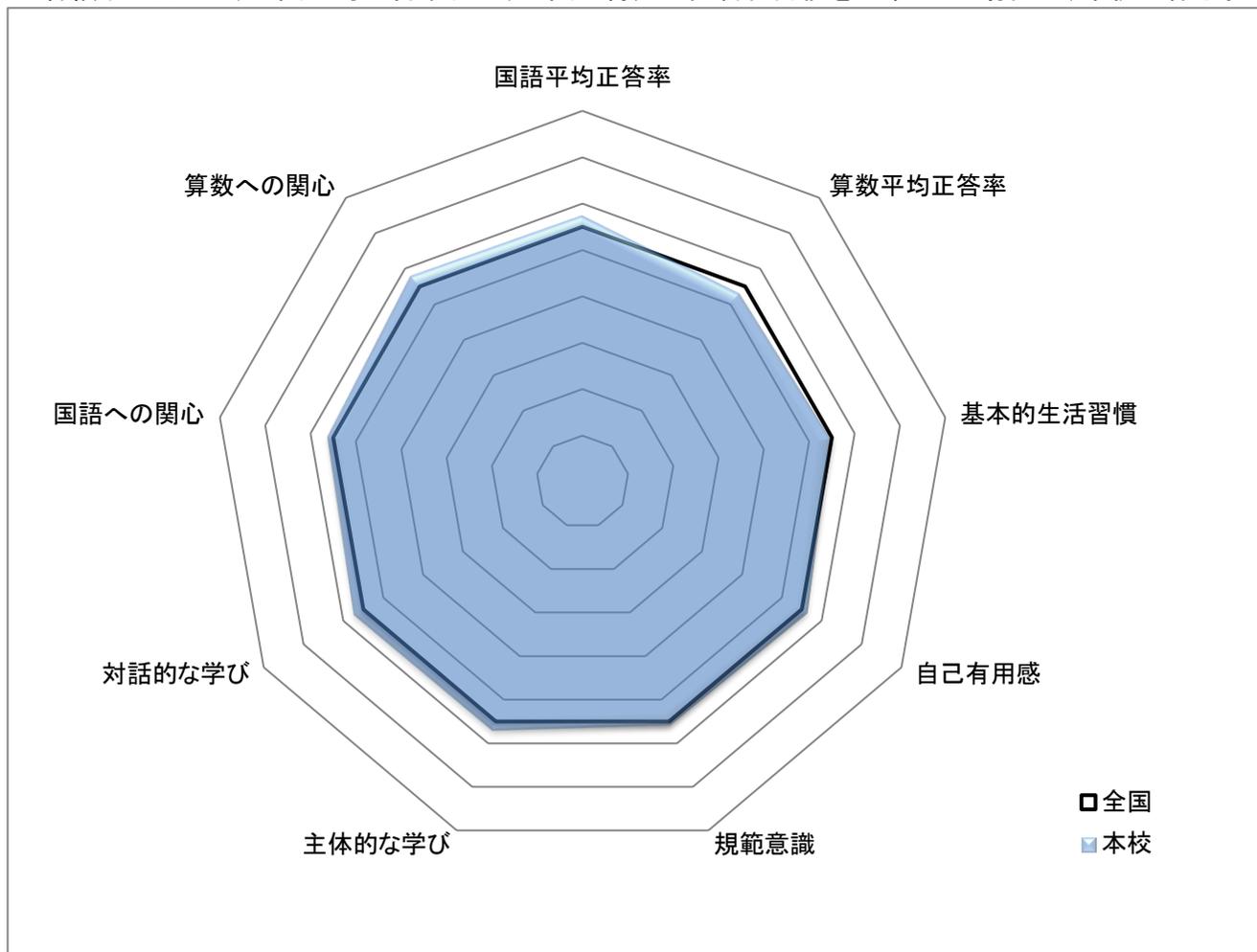


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語は「領域別」の結果から、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「話すこと・聞くこと」が全国平均を上回っている。一方、「書くこと」、「読むこと」については全国平均を下回っているため、長文の読解と要約が苦手だと考えられる。算数は「領域別」の結果から、「知識・技能」、「数と計算」、「データの活用」は平均値より低く、「思考・判断・表現」、「図形」、「変化と関係」は東京都平均よりは低いが、全国・江戸川の平均は上回っている。このことから、問題文の読み取りと、資料の分析と整理が苦手だと考えられる。

《授業改善のポイント》

国語では、物語文や説明文で新しい言葉や表現方法、漢字の読みの発見、「よむYOMUタイム」の継続的な取り組みを充実させることで読解力を高めたい。算数では、「一字一句きちんと認識する読み方を身に付ける」ことができるよう、授業で扱う問題を正確に音読する時間を確保する。また、答えを導くために必要な数値や情報を整理できるように、問題文の数やキーワードにマークをつけ、問題を解く見通しをもってから問題に取り組む活動を取り入れる。また、自分の考えを説明する、友達の考えを聞く、疑問があれば質問するといった、学び合う時間をしっかりと確保できるようにする。

《チャートの特徴》

国語と算数の平均正答率と、「児童の学習や生活に関する関心」の質問調査について、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子が上のチャートに示されている。本校の調査結果から、国語は全国平均を上回り(3.3ポイント)、算数は全国平均を下回って(2.4ポイント)いることが分かった。「児童の学習や生活に関する関心」では、基本的な生活習慣のみ全国平均を下回り(0.9ポイント)、それ以外の項目は全て全国平均を約1ポイント以上上回る結果がチャートに表れている。

《家庭・地域への働きかけ》

国語・算数への関心が高く、主体的な学びと対話的な学びも全国よりポイントが高いことから、引き続き、学年×10分の自主学習（家庭学習）、サポートの声掛けをしていくことで、更なる自主学習（家庭学習）の定着を図る。